

# おうちミュージアム 「ミニ纏(まとい)をつくってみよう！」

昔の火消しが使っていた纏(まとい)のミニチュア版を作ってみましょう。

## 《はじめに～纏(まとい)って何？》



纏 大正10(1921)年 当館蔵

まとい は、むかし しょうぼう ひと つか どうぐ  
纏 は、昔の消防の人たちが使った道具  
の一つです。かじ げんば  
火事の現場でこれを回すことで、  
火が出た位置や次にこわす家を知らせたり、火  
の粉をちらして火が広がるのをふせいだりする  
はたらきがありました。

かくしょうぼうぐみ  
各消防組のシンボルマークがくる頭の部分  
を陀志(だし)、下の細長いひらひらした部分を  
馬簾(ばれん)と呼びます。木と鉄でできている  
まとい  
纏 はとても重いものです。まといも しょうぼう  
纏 持ちは、消防  
の中でも若くて力持ちの人が任される、重要  
な役割だったのです。

## 《準備するもの》

- ・ペットボトルのふた 1個
- ・わりばし(角のない、丸いものがベスト) 1本
- ・型紙(厚めの紙に印刷すると作りやすいです)  
※ダウンロードできない場合は、2 ページに  
ある型を自分で書いて作ってみましょう。
- ・はさみ
- ・木工用ボンド
- ・定規
- ・サインペンや色えんぴつ



## 《つくりかた》

1. ペットボトルのフタのまんなか、はしをさし込めるくらいの大きさの穴をあけます。(図1)

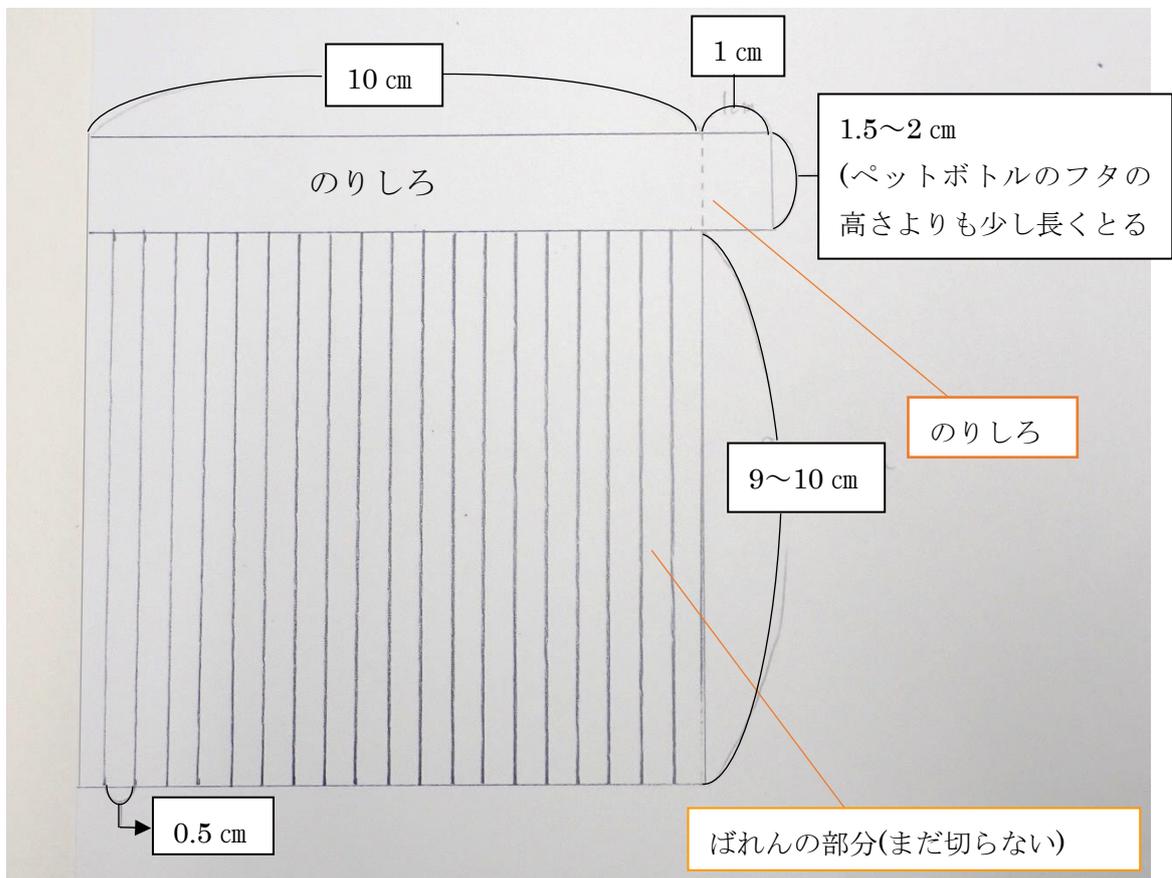
はしの先が1.5~2センチくらい出たところで止まるように、穴の大きさを大きくしすぎないようにしましょう。

穴をあけたら、はしを先の方(細くなっている方)から、ねじるようにしてさしこみます。(図2)

※かなり力が必要で、先のとがったものを使うので、おうちのひとと一緒にやりましょう。

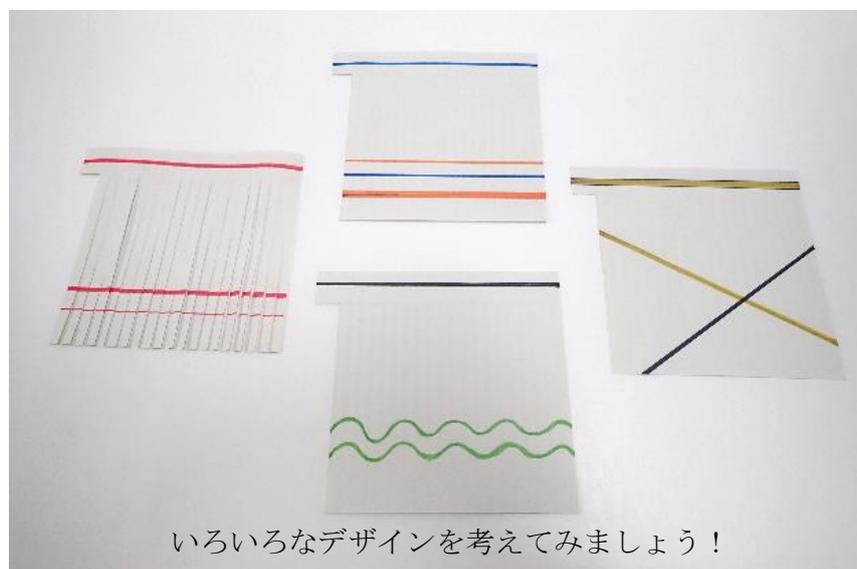
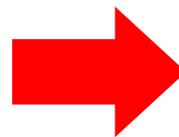
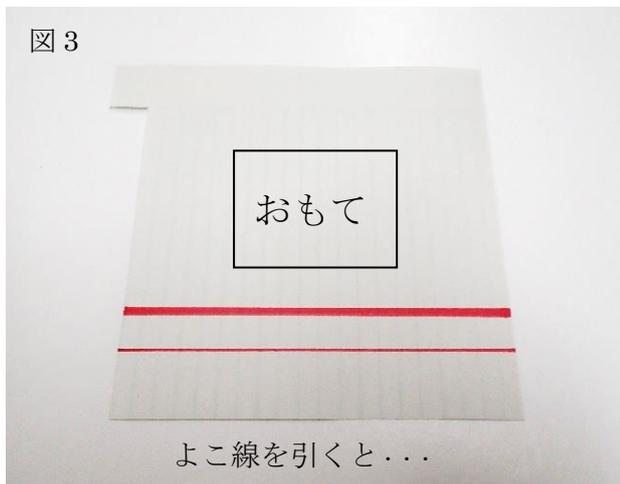
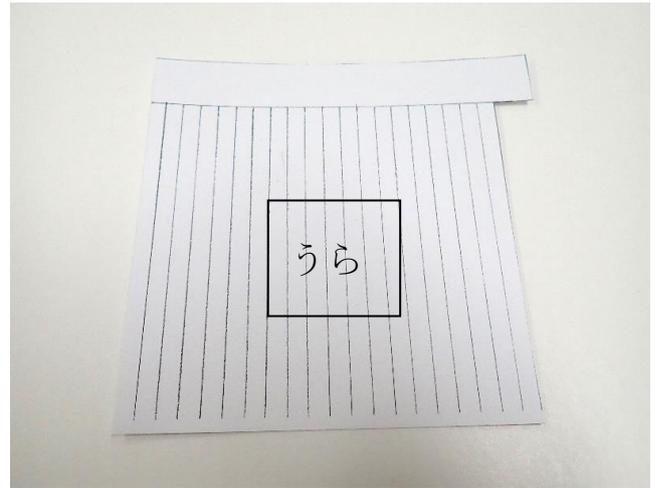
2. 型紙の①ばれんパーツの一番外側の線をはさみで切ります。(ばれんの部分はまだ切らないでください)

型紙がダウンロードできなかった場合は、下の図を参考に、型を書いて切り取ってみましょう(1センチののりしろを切り落とさないように注意!!)



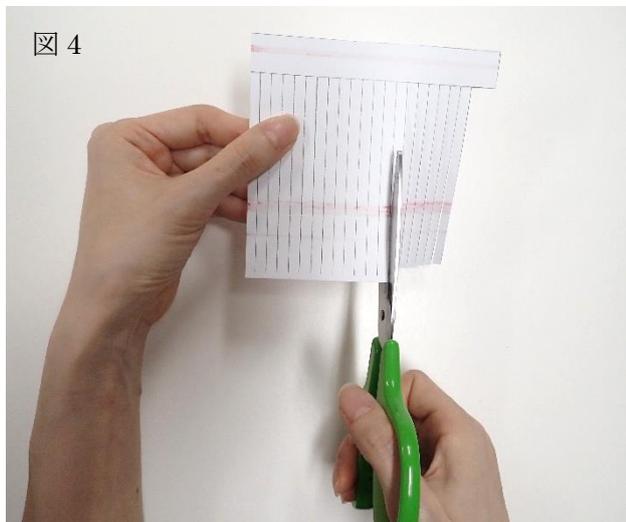
3. ばれんの部分(たて線)を切る  
前に、おもて側<sup>もよう</sup>に模様を書き  
込みます。(図3)

昔の纏はどんな風だったのか  
調べて真似<sup>まね</sup>をしたり、自分だけ  
の模様を書いてみましょう。



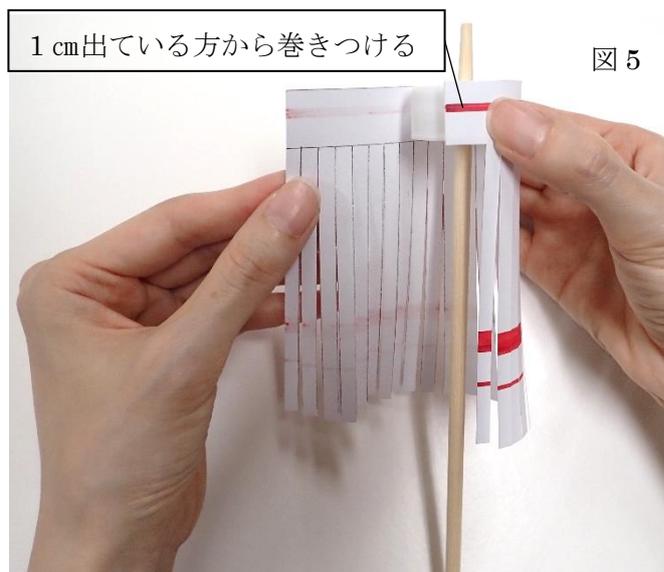
4.模様を描き終わったら、ばれん<sup>ぶぶん</sup>部分のたて線を切っていきます。(図4)

※上ののりしろ部分まで切ってしまうないように注意！！



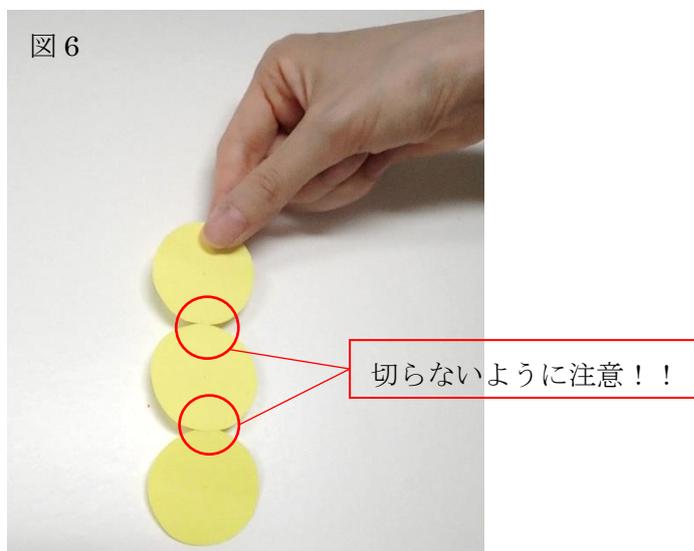
5.うら側ののりしろ部分にボンドをつけ、はしをさしたペットボトルのふたに巻きつけます。巻きつけ終わったら、しっかりとくっつくようにしばらく押しあえます。(図5)

※1センチ出ている方から巻きつけてください。



6.型紙の②だしパーツから、好きな形を一つ選んで切ります。三つの面がバラバラにならないように切ってください。(図6)

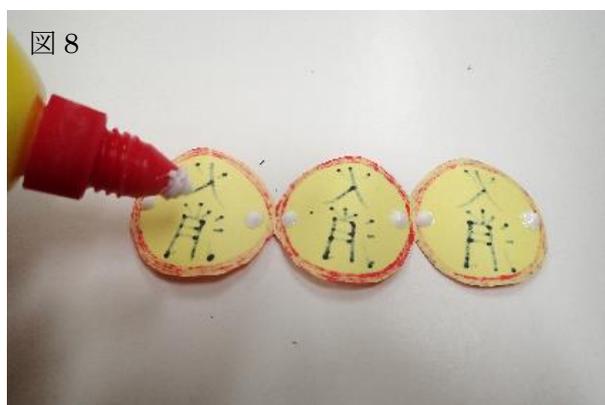
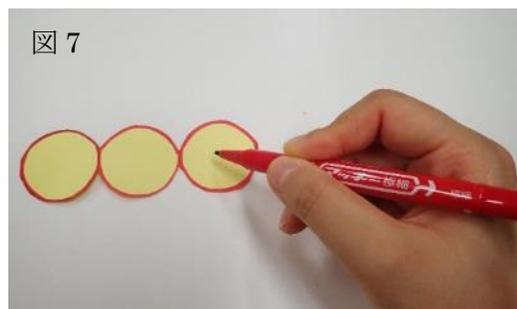
ばれんの部分とはちがう色の紙を使っても良いでしょう。



7.3つの面のおもて側に、自由に模様や文字を書いたり、色をぬりましょう。(図7)

書き終わったら、うら側にボンドをつけ(図8)、画像のように三つの面を貼り合わせます。(図9)

※全面にボンドをぬってしまうと、はしを差し込めなくなってしまうので中心の部分にはぬらないようにしましょう。



8.はしの先にボンドをつけ、貼り合わせただしの部品をさしこみます。しっかりくっつくように指でしばらく押さえます。(図10)



## できあがり！

紙ねんどや木で台を作ったり、ペン立てなどに立てるとかっこよく見えます。



いろいろなまといを作ってみましょう！

